

全国保育問題研究協議会

— 第31回 —

夏季セミナー

異年齢保育の探求

ゆったり
ゆっくり
ゆたかな保育



ここ数年、過疎地や認可外の小規模保育園での「仕方がないから異年齢保育」だけでなく、年齢別にクラス編成できる規模の保育園でも「あえて異年齢保育」に取り組む園が増えていきます。また「3.4.5歳児の異年齢保育」だけでなく1歳又は2歳の「未満児を含んだ異年齢保育」など多様なクラス編成も試みられています。

しかし、異年齢保育で年齢ごとの発達には保障できるのか？異年齢での活動や行事をどう組み立てるのか？同年齢も異年齢もそれぞれ良さがあるのだから異年齢交流保育でいいのではないかと等、異年齢保育への疑問や躊躇も見られます。

一方、同年齢保育での行き詰まりを感じた保育園等では、延長保育での経験や混合保育やたてわり保育の実践に学び、職員たちは異年齢保育への淡い期待を実践的確信にまで深めてきました。異年齢保育の、「弟にも、真ん中にも、お兄ちゃんにも役割が変化する関係」「頼り頼られ、あてにしあてにされる関係」など、

多様な人間関係の中で育ち合うことを確かめてきました。同時に、クラスではなく「おうち」と呼び、「安心を土台にした暮らしの保育」も試みられ、保育は教育か暮らしかという問い返しも提起されています。

保育に格差を持ち込み公的責任を後退させる子ども・子育て支援新制度は、保育を学校教育に傾斜させ保育と教育を分断して現場に混乱を引き起こします。異年齢保育という実践的視点から批判的検討も必要です。

ここ数年保問研全国集会の集団づくりや保育計画分科会を中心に提案が出され、異年齢保育の分散会ができるほど提案も増えています。異年齢保育を深めたい人は、いろんな実践に学び交流し合い新たな一歩を探しましょう。異年齢保育はしていないけれど保育に悩んでいる人も異年齢保育の発想がヒントになるかもしれません。ぜひご参加ください。

8月23日(土)12:00受付 12:50~17:00

24日(日)9:10~12:10 京都府京都キャンパスプラザにて

24日(日)14:00~15:30 滋賀県きたの保育園見学

参加費 7000円・学生3500円 定員200名 先着順 定員になり次第締め切り

申込締め切り日
2014年
8月18日(月)

1日目

8月23日(土)

- ◇ 歓迎セレモニー 京都保問研有志 12:50～
- ◇ あいさつ 全国保育問題研究協議会 常任委員会
- ◇ 異年齢保育セミナーをはじめるとあって 脇 信明(大分保問研)
- ◇ 実践報告 14:00～

実践① ◀◀◀

異年齢での劇づくり

たんぼぼ保育園 西岡 菜絵
「むしたちのおんがくかい」に取り組んで(愛知保問研)

初めて異年齢で劇を作ることになりました。異年齢の劇だからこそ体験できるものは何なのか、それを考えながら進めてきました。一方で、今まで5歳児のみで劇をしていたので、保護者からは5歳児としての力はつくのか?話し合いはちゃんとできるのか?と不安も多く出されました。私たちも異年齢で、どうやって作るのか、試行錯誤してきました。まずは、年齢ごとに付けたい力を考えつつ、子どもたちがどう考えていくのか探っていくことにしました。そうすると、5歳児は、自分たちで作って成功させたい気持ちがいっぱいでした。(これは5歳児だけの劇と同じでした)4歳児は5歳児と一緒に劇のことを考え、作ることで大きくなった誇りを感じたり、3歳児に頼られて頑張れる自分を感じる姿がありました。3歳児は4・5歳児の劇を作っている姿に憧れ、一緒にできることが嬉しそうでした。一緒に生活している仲間だからこそ、無理なくできて、自然な姿が出せた取り組みになりました。今年で、取り組み始めて3年目になります。子どもたちと共に、生活を通じて、いろいろな方法を考えていけたいいなと思っています。

コメンテーター：山本理絵(愛知保問研)

実践② ◀◀◀

1歳児がいるのが当たり前前の暮らし きたの保育園 一未満児を含んだ異年齢保育一 藤下 菜穂子

きたの保育園は、2006年開設当時より1歳児から5歳児までの異年齢保育を行って来ました。安心した居場所づくりと多様な人との関係の中での育ちを目標に歩み出しましたが、年齢別の課題や目標にとらわれた日常や行事などの生活から、一人ひとりの子どもの姿から暮らしをつくる異年齢の保育に至るまで、試行錯誤の連続で今も最中です。小さい子も大きい子も共に生活していることが「暮らし」であり、小さい大きいという関係でなく、一人ひと

りの存在そのものが認められる日々が「暮らし」であり、日常に起きるぶつかり合いも「暮らし」であり、そうしたでこぼこを埋めていくのがまた「暮らし」であり、互いに納得しあえれば、いつものようにもとに戻り過ごせる日常が「暮らし」であると考えました。

毎日の暮らしに1歳児の小さい子がいることが当たり前前の暮らしになっており、1歳児を取り巻き子ども達の関係とそこで見せてくれる子どもの心模様は、可愛くも面白くもあり、互いを必要とし認めあう子ども達です。

0歳児のおうちからたんぼぼのおうちに来てくれた大立き虫のWちゃんをめぐっての子ども達の姿を中心にした姿とともに、賑やかに食卓を囲む姿を紹介します。

コメンテーター：西川由紀子(京都保問研)

実践③ ◀◀◀

世代をこえてつながる保育をめざして 黒肥地保育園 一過疎地の異年齢保育一 鍋田 まゆ (熊本保問研)

私たちの町の出生数は2012年に77名、13年には65名とさらに大きく減少しました。

町部にある5ヶ園にはそれぞれ50名から100名の園児が通っていますが、私たちの園は89名です。この人数は同年齢のクラスができないわけではありません。しかし、色んな理由で2歳児から5歳児の異年齢保育に切り換え、4年目を迎えました。

今年度は“おうち”が4部屋から5部屋に増えました。田んぼ、畑は3カ所あり、“より農的”で“より暮らし”的であろうと思っています。

異年齢保育を始めた当初、保護者の大きな反発に遭いましたが、今年(2014年)になり、「同年齢保育って何ですか?」と尋ねられるようになりました。

過疎化と高齢化が進む中で、子どもの存在は大きく、大人たちに見守られるばかりではなく、喜びを与えています。子どもが地域でくらすことにはどんな意味があるのでしょうか。これから保育園は何を模索しなければならぬのでしょうか。考えてみたいと思います。

コメンテーター：宮里六郎(熊本保問研)

～17:00 終了予定

◇ 質疑応答

2 日目

8月24日(日) 9:10~11:10

◇ 入門講座

伊藤シゲ子 林 若子
(愛知保問研) (南埼玉保問研)

「異年齢保育」という言葉をきいてどのようなイメージをもつか、人によって様々です。実際に「異年齢保育」を実践している保育園・幼稚園の保育方法も多種多様です。しかしながら、わざわざ異年齢集団を保育の基礎集団にしようとする園の考え方や大事にしたいものには共通する部分があるようです。異年齢保育にどう取り組むのかというよりも、なぜ取り組むのか、どのような保育を実現したいのかが大切です。とはいえ、あまり深く考えずに夢中で異年齢保育に取り組んできた中で、これまでとはひと味違う保育観を見出した保育者も多いようです。これから異年齢保育に取り組みたい人はもちろんのこと、既に実践していても、あるいは取り組むつもりはなくても、頭を柔らかくして保育について捉えなおす機会になる講座です。

◇ グループディスカッション — 交流し、深め合い、明日への一歩を

◎参加者は3部屋に別れます。部屋によっては小グループに分かれて討議します。

- ①1日目の3人の提案についての感想を出し合い、もう一度提案について深めます。
3人の提案者も各グループに入ってもらいます。
- ②参加者の異年齢保育のクラス編成(子どもの人数・保育者数)・保育環境・一日の流れ・保育の願いなどを交流します。できれば各園の資料(入園案内、園便り)などご持参ください。
- ③異年齢保育の悩みだけでなくそれぞれの工夫を出し合い、明日の具体的な一歩を探ります。
- ④最後に、今の子どもや保護者の状況そして保育制度の流れの中で異年齢保育の意義を確認しましょう。

「入門講座」・「グループディスカッション①・②・③」合計4部屋に分かれて行います

◇ まとめ	11:10~	渡邊 保博(京都保問研)
◇ 移動	12:10~	
◇ きたの保育園見学		14:00~15:30

きたの保育園の園舎と園庭の紹介 小山 逸子(滋賀保問研).....

2004年4月に1歳児から5歳児までの異年齢保育を行う保育園として開園されました。異年齢の子ども達が毎日朝から夕方まで暮らす居場所としての「おうち」は、食べたり寝たり遊んだりの当り前の生活を営むことを大切にしてくられています。その「おうち」は、玄関、居間、食堂、台所、寝室、トイレを有する伝統的な日本家屋の「田の字型」の間取りになっています。そして、食べることは生きる力を育てるとして、子どもと大人が向かい合って使える対面式キッチンがあり、食事は1歳児から5歳児までが食卓を囲んで取ります。(設計は莫設計事務所)

園舎の中には今、1歳児から5歳児が暮らす「おうち」が4軒(1軒は3月に増築し現在は1~2歳児のみ)、0歳児と1歳児の低月齢が暮らす「おうち」が1軒あります。おうちの中では「家族」のように共に互いを大切に思い暮らし、お隣のおうちの人も一緒に

に毎日を楽しんでいます。

園庭は今広場と名を変えました。おうちの外に出ればそこは地域で、広場も地域の一つで、そこでは、それぞれのおうちの人たちが交わって遊び、時には、保育園が各おうちに呼びかけて、夏祭りやげんき広場などの行事も行われます。また開園4年目には、「保育園の周囲は、田畑はあるが山や川はなく公園も遠く、変化に富んだ多様な自然が非常に乏しいので、四季の移り変わりが感じられ、様々な生態系が成り立つ豊かな園庭にする」ために、運動会ができるだけ広い園庭に丘や道を作り、子ども自らが自然に関わり遊べ、そうした生活が、子どもの心に未永く記憶に残り豊かな生活の基盤となることを願って園庭の見直しを行いました。1年を通して園庭の自然は、子どもたちにかげがえのないたくさんの気持ちをくれ、子ども達はそうした自然に抱かれるように遊び呆けています。

▼申し込み方法

□ 参加費 7,000 円 (学生 3,500 円)

□ info@zenhomon.jp にメールで申し込みください。(6月2日～8月18日)

複数人まとめても可能です。止むを得ず FAX の場合は、03 (3818) 8026 です。

必ず、一週間以内に返信をします。

(先着順ですので、期日より前でも定員いっぱいの場合にはその旨をお伝えします。

拒否設定をはずし、必ず受付番号や振込み方法等の返信をご確認ください。)

□ 申し込みの際には

- ① 名前(フルネーム)複数人の場合は、代表者に印の上、全員分をお願いします。
- ② 連絡先名称及び電話番号(携帯可) 複数人の場合は、代表者の方のみお願いします。
- ③ 都道府県及び 保問研に所属の方は保問研名、学生の方は明記をお願いします。
- ④ きたの保育園見学参加の方は
交通手段希望予定(徒歩・タクシー・自家用車のいずれかを明記ください。)

☆ きたの保育園見学のみの参加はお断りしています。保育園への問い合わせもしないでください。時間内の見学にご協力ください。きたの保育園への見学にあたり、事情により自家用車でのご利用を希望する場合は、上記申し込み時にお申し出ください。台数に限りがあり、こちら先着順です。必ず、返信内容をご確認ください。

☆ きたの保育園(滋賀県野洲市市三宅242-1)への各自移動は、京都駅からJR乗車野州駅約40分後下車後、徒歩は18分、タクシーでは5分。(タクシー台数の少ない地域のため往復の目安人数をタクシー会社に連絡します。)

【問い合わせ】 電話・FAX 03 (3818) 8026

留守電もしくは FAX の場合、お名前お電話番号をお願いします。

キャンパスプラザ京都

京都市下京区西洞院通塩小路下る
東塩小路町939

ビックカメラ前、JR京都駅ビル駐車場西側
京都駅より徒歩5分

(075) 353-9111

